

# 西田幾多郎名言集

江川剛史  
(編集)

この本は、  
西田幾多郎を知らない、  
全ての人に捧げます。

西田 幾多郎(にしだ きたろう、1870年5月19日-1945年6月7日)は、日本を代表する哲学者。京都大学名誉教授。京都学派の創始者。

#### [経歴]

石川県宇ノ気町森(現在かほく市森)に、長男として生まれる。西田家は、大庄屋を務めた豪家だった。

若い時は、肉親(姉・弟・娘2人・長男)の死、学歴での差別、父の事業失敗で破産となり、妻との離縁など、多くの苦難を味わった。

大学卒業後は中学の教師となり、同時に思索に耽った。

その頃の思索が『善の研究』に結実、代表的な必読書となった。

京都帝国大学教授時代は、18年間、教鞭をとり、三木清、西谷啓治など多くの哲学者を育て上げた。

## 世界新秩序の原理

西田幾多郎

世界はそれぞれの時代にそれぞれの課題を有し、  
その解決を求めて、  
時代から時代へと動いて行く。

by 西田幾多郎

今日の世界は、  
私は世界的自覚の時代と考える。  
各国家は各自世界的使命を自覚することによって  
一つの世界史的世界  
即ち世界的世界を構成せなければならない。  
これが今日の歴史的課題である。

by 西田幾多郎

いずれの国家民族も、  
それぞれの歴史的地盤に成立し、  
それぞれの世界史的使命を有するのであり、  
そこに各国家民族が各自の歴史的命を有するのである。

by 西田幾多郎

私の世界的世界形成と云うのは、  
各国家各民族がそれぞれの歴史的地盤に於て  
何処までも世界史的使命を果すことによって、  
即ちそれぞれの歴史的命に生きることによって、  
世界が具体的に一となるのである、  
即ち世界的世界となるのである。

by 西田幾多郎

各国家民族が自己自身に還り、  
自己自身の世界史的使命を自覚することによって、  
結合して一つの世界を形成するのである。  
かかる総合統一を私は世界と云うのである。

by 西田幾多郎

従来は世界は抽象的であり、  
非実在的であった。  
併し今日は世界は具体的であり、  
実在的であるのである。

by 西田幾多郎

編集:江川剛史

文章:青空文庫

底本:「西田幾多郎全集 第十二巻」岩波書店

1966(昭和41)年1月26日発行

1986(昭和61)年11月25日第4刷発行

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、  
現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、  
底本の表記をあらためました。

入力:nns

校正:土屋隆

2004年8月20日作成

2011年4月1日修正

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫  
(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。

入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

## 絶対矛盾的自己同一

西田幾多郎

現在を単に瞬間的として  
連続的直線の一点と考えるならば、  
現在というものはなく、  
従ってまた時というものはない。

by 西田幾多郎

過去は現在において  
過ぎ去ったものでありながら  
未だ過ぎ去らないものであり、  
未来は未だ来らざるものであるが  
現在において既に現れているものであり、  
現在の矛盾的自己同一として  
過去と未来とが対立し、  
時というものが成立するのである。

by 西田幾多郎

過去と未来とはまた何処までも結び附くものでなく、  
何処までも過去から未来へと動いて行く。

by 西田幾多郎

働くということは唯意志するということではない、  
物を作ることである。

我々が物を作る。

物は我々によって作られたものでありながら、  
我々から独立したものであり逆に我々を作る。

by 西田幾多郎

何処までも創造的ということは、  
いつも未来からということであろう、  
つまり過去からということはないのである。

by 西田幾多郎

一瞬の前にも還えることのできない  
純粹持続の世界には、  
現在というものもあることはできない。

by 西田幾多郎

生物の形というのは機能的である。

by 西田幾多郎

いつも超越的なるものが内在的であるのである。

by 西田幾多郎

現在が形を有もち、  
過去未来を包むということ、  
そのことが自己自身を否定し、  
自己自身を越え行くことでなければならない。

by 西田幾多郎

我々は自己自身を形成する世界の個物として  
形成作用的に働くのでなければならない。

by 西田幾多郎



自己というものが超越的に外にあるのではなく、  
意識する所そこに自己があるのであり、  
その時その時の意識が  
我々の全自己たるを主張し要求する。  
しかもそれを否定的に統一し行く所に、  
真の自己というものがあるのである。  
by 西田幾多郎

人間の身体は制作的である。  
by 西田幾多郎

我々はこの世界において  
或物を形成すべく課せられているのである。  
そこに我々の生命があるのである。  
我々はこの世界に課題を有って生れ来るのである。  
by 西田幾多郎

動物より人間へという時  
我々は社会的となる。  
by 西田幾多郎

具体的人格は  
歴史的身体的でなければならない。  
by 西田幾多郎

宗教は道德の立場を無視するものではない。  
かえって真の道德の立場は  
宗教によって基礎付けられるのである。  
by 西田幾多郎

編集:江川剛史

文章:青空文庫

底本:「西田幾多郎哲学論集」岩波文庫、岩波書店

1989(昭和64)年12月18日第1刷発行

底本の親本:「西田幾多郎全集 第9巻」岩波書店

1979(昭和54)年

初出:「思想 第202号」

1939(昭和14)年3月

[ ]内の編集者による注記は省略しました。

入力:nns

校正:ちはる

2001年6月5日公開

2014年4月12日修正

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。

入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです

## 善の研究

西田幾多郎

経験するというのは事実其儘(そのまま)に知るの意である。  
全く自己の細工を棄てて、  
事実に従うて知るのである。

by 西田幾多郎

過去と感ずるのも現在の感情である。  
釈迦、基督(キリスト)が千歳の後にも  
万人を動かす力を有するのは、  
実に彼らの精神が能く  
客観的であった故である。

by 西田幾多郎

我なき者

即ち自己を滅せる者は  
最も偉大なる者である。

by 西田幾多郎

いずれの時代でも、  
いずれの人民でも、  
神という語をもたない者はない。

by 西田幾多郎

実在の根柢には  
精神的原理があつて、  
この原理が即ち神である。

by 西田幾多郎

神は宇宙の大精神である。

by 西田幾多郎

我々は他愛において、  
自愛におけるよりも  
一層大なる平安と喜悦とを感ずるのである。

by 西田幾多郎

神は無限の愛、  
無限の喜悦、  
平安である。

by 西田幾多郎

善とは一言にていえば人格の実現である。

by 西田幾多郎

神とはこの宇宙の根本をいうのである。

by 西田幾多郎

すべて我々の精神を支配する  
宇宙統一の念は  
神の自己同一の意識であるといつてよかろう。

by 西田幾多郎

神には過去も未来もない、  
時間、  
空間は宇宙的意識統一に由りて生ずるのである、  
神においては凡てが現在である。

by 西田幾多郎

神の愛というのも  
神は或人々を愛し、  
或人々を憎み、  
或人々を栄えしめ、  
或人々を亡ぼすという如き  
偏狭の愛ではない。  
by 西田幾多郎

神は凡ての实在の根柢として、  
その愛は平等普遍でなければならず、  
且つその自己発展その者が  
直に我々に取りて  
無限の愛でなければならぬ。  
by 西田幾多郎

万物自然の発展の外に  
特別なる神の愛はないのである。  
by 西田幾多郎

我々が神を知るのは  
ただ愛  
または信の直覚に由りて  
知り得るのである。  
by 西田幾多郎

我は神を知らず  
我ただ神を愛す  
またはこれを信ずという者は、  
最も能く神を知りおる者である。  
by 西田幾多郎

編集:江川剛史

文章:青空文庫

底本:「善の研究」岩波文庫、岩波書店

1950(昭和25)年1月10日第1刷発行

1979(昭和54)年10月16日第48刷改版発行

1999(平成11)年10月25日第86刷発行

底本の親本:「善の研究」岩波書店

1937(昭和12)年改版

入力:nns

校正:かとうかおり

ファイル作成:かとうかおり、nns

2000年7月27日公開

2000年8月29日修正

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。

入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

## デカルト哲学について 西田幾多郎

実践と離れた実在というものはない。  
単に考えられたものは実在ではない。  
by 西田幾多郎

知識を論ずるのが知識哲学であり、  
道徳を論ずるのが道徳哲学である。  
by 西田幾多郎

問題は無限の解決を含み、  
解決は無限の問題を含んでいるのである。  
by 西田幾多郎

編集:江川剛史

文章:青空文庫

底本:「西田幾多郎哲学論集3[#「3」はローマ数字3、1-13-23]

自覚について」岩波文庫、岩波書店

1989(平成元年)年12月18日第1刷発行

※本文中[]で囲まれた編者による注記は削除しました。

入力:nns

校正:土屋隆

2004年8月20日作成

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。

入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。